

仙台医療圏の病院再編 地域説明会(第3回)

1. これまでの説明会でいただいた主な御質問

- ① 移転後の地域への影響に関する質問
- ② 再編の必要性に関する質問
- ③ 再編の進め方に関する質問
- ④ 仙台市との関係に関する質問
- ⑤ 移転後の跡地に関する質問
- ⑥ 精神医療センターに関する質問

2. 御質問への回答

①移転後の地域への影響に関する質問

Q 仙台市内の救急医療の受入の緩和につながるとのことだが、コロナ禍においては仙台市内では他市町村よりも医療がひっ迫していた状況であったのに、どうして仙台市内から大きな拠点病院を移転するのか。

A 救急医療に関しては、現状、黒川地域の搬送数のうち、7割以上が仙台市内へ流入しており、このことが市内の受入体制がひっ迫している要因の一つと考えています。救急医療を強化する新病院を黒川地域に配置することにより、市内への流入を食い止めるとともに、黒川地域の搬送時間の短縮化に貢献できるものと考えています。コロナ禍においても、感染症に対応できる病院が仙台市内に集中していることにより、仙台市外から患者が流入したものと考えていることから、新病院の仙台市外への配置は、救急医療と同様の効果があるものと期待しています。

(参考) 仙台医療圏の救急搬送受け入れ状況

各消防における市区町村別救急搬送地域 (件/年)

黒川消防	富谷市	大和町	大郷町	大衡村	総計	割合
富谷市/黒川郡への搬送	131	187	47	67	432	13.8%
仙台市への搬送	1,303	763	207	131	2,404	77.1%
上記以外への搬送	32	111	88	49	280	8.9%
総計	1,466	1,061	342	247	3,116	100.0%

➡ 自地域完結

➡ 他地域へ流出のうち仙台市へ流出分

名取市・あぶくま消防	名取市	岩沼市	亘理町	山元町	総計	割合
仙台医療圏うち名取市以南への搬送	743	831	686	321	2,581	39.5%
仙台市への搬送	2,079	912	450	216	3,657	56.0%
上記以外への搬送	20	65	105	101	291	4.4%
総計	2,842	1,808	1,241	638	6,529	100.0%

➡ 自地域完結

➡ 他地域へ流出のうち仙台市へ流出分

仙台市消防	青葉区	太白区	宮城野区	泉区	若林区	総計	割合
仙台市内への搬送	13,115	8,876	7,264	7,149	5,131	41,535	98.7%
市外への搬送	79	116	249	38	30	512	1.2%
総計	13,194	8,992	7,513	7,187	5,161	42,047	100.0%

➡ 自地域完結

➡ 他地域へ流出

(出典) 仙台医療圏内の各消防本部から受領したデータ (令和2年分) より作成

2. 御質問への回答

①移転後の地域への影響に関する質問

Q 台原地区ではすでにJCHO仙台病院が移転しており、地域の拠点病院は半分以下になってしまっている状況で、東北労災病院が移転すれば数万人が影響を受けてしまうが、どのように考えているのか。

A 台原地区を中心とした地域には、近隣に東北大学病院や仙台厚生病院、仙台医療センター、仙台オープン病院などが立地しており、救急医療体制は十分機能するものと考えています。

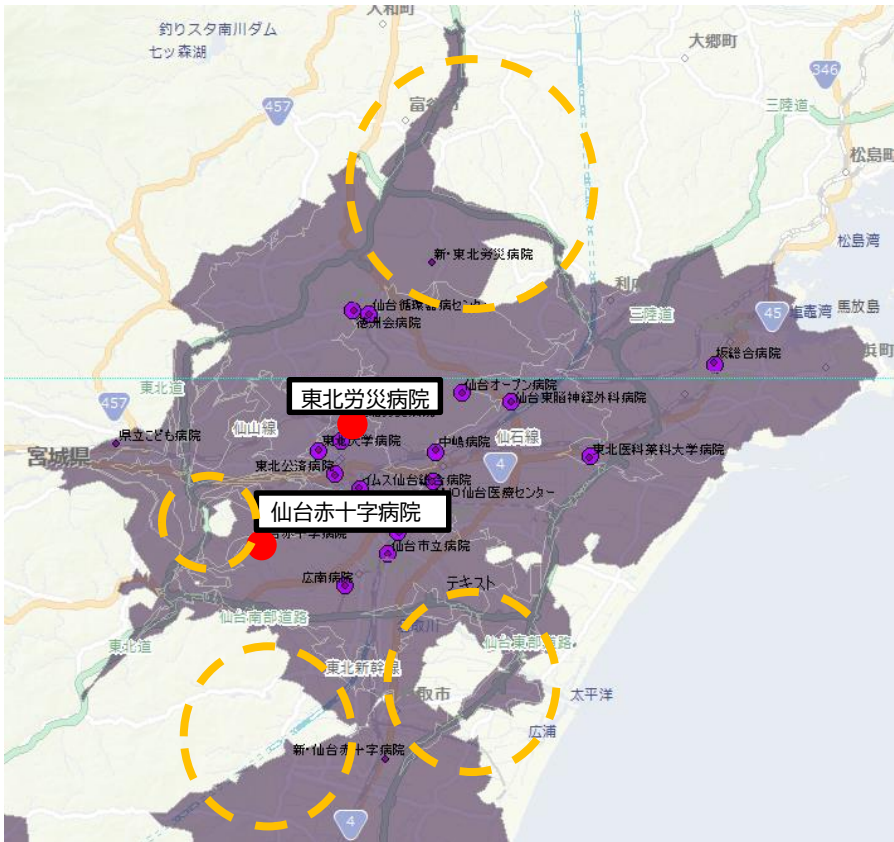
なお、今回の病院再編により、救急の拠点病院から車で15分で行ける範囲のカバー人口は、青葉区内ではほとんど変わらず、一方で、周辺地域（富谷市、大和町、太白区、名取市）では顕著に増加することを確認しており、広域的な観点で、医療提供体制の強化につながるものと考えています。

2. 御質問への回答

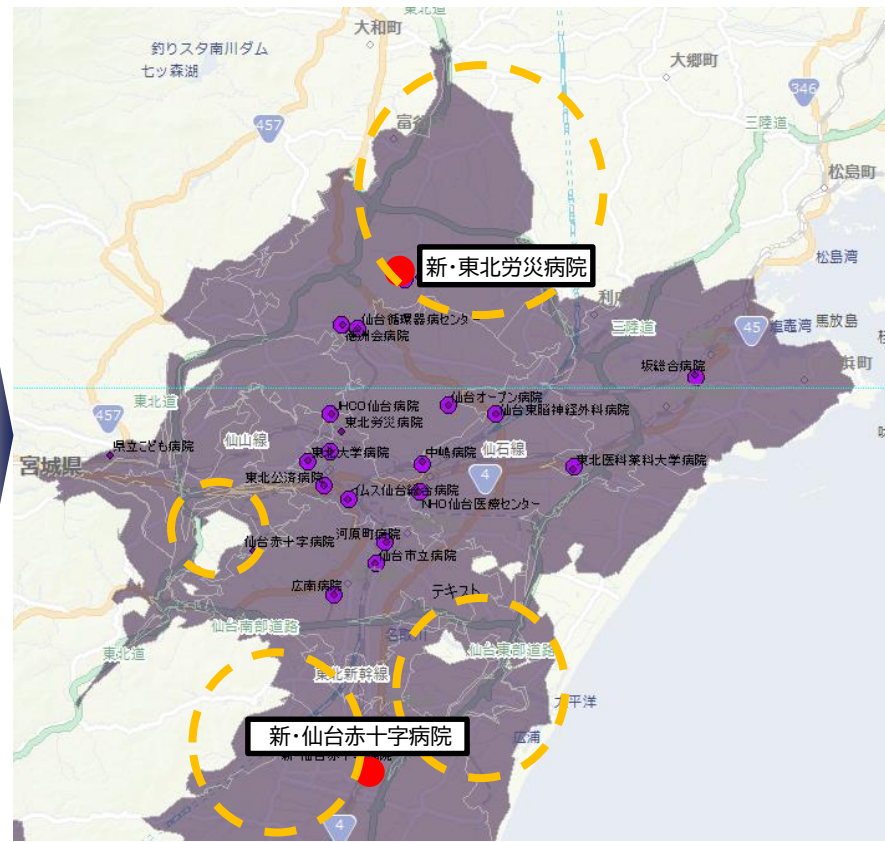
(参考)救急の拠点病院から15分の車運転で行ける範囲

- 移転に伴い、青葉区で微減となるが、移転候補地である名取市と富谷市のほか、太白区、大和町においても増加となり、医療圏全体の救急搬送体制の向上が期待される。

移転前



移転後



2. 御質問への回答

(参考)救急の拠点病院から15分の車運転で行ける範囲

○ 移転に伴い、青葉区で微減となるが、移転候補地である名取市と富谷市のほか、太白区、大和町においても増加となり、医療圏全体の救急搬送体制の向上が期待される。

市区町村名	メッシュ人口*1	現在の所在のカバー人口*2	新たな所在のカバー人口*3	増減	増減率	現カバー率*4	新カバー率
青葉区	310,562	285,333	285,132	▲ 200	▲0.1%	91.9%	91.8%
太白区	226,688	206,598	215,272	8,674	4.2%	91.1%	95.0%
名取市	79,508	69,108	72,027	2,920	4.2%	86.9%	90.6%
富谷市	54,204	44,315	47,929	3,615	8.2%	81.8%	88.4%
大和町	29,819	2,395	5,039	2,644	110.4%	8.0%	16.9%

表は、病院再編前後でカバー率に変動が生じる市区町村を抜粋して表記
(他の市区町村では変動は生じない)

*1 国土交通省による2015年国勢調査データから推定された2020年の500mメッシュ人口の総和

*2 厚生病院は雨宮の新病院として計算

*3 労災、日赤が移転した場合

*4 市区町村のメッシュ人口に対するカバー人口の割合

(出典) 上記データ等を基に県保健福祉部で作成

2. 御質問への回答

① 移転後の地域への影響に関する質問

Q 令和4年度は仙台赤十字病院と東北労災病院で合わせて5,900件程度の救急搬送を受け入れており、2つの病院が仙台市外へ移転した場合、約5,900件分の救急搬送はどこが受け入れるのか。

A 搬送件数や搬送時間だけでなく、救急の質の向上が求められていると考えています。例えば救急受入用のベッドが無いから受け入れられないというのはあまり多くはなく、むしろ専門医がいないということであったり、後方ベッドが無いといった状況があり、これは救急医療の専門家からも指摘されています。専門医の養成を進めるとともに、集中的な配置といったことも併せて再編を上手に行うことで、全体として救急の能力が向上するような方向を目指し、仙台市とも協議を進めていきたいと考えています。

2. 御質問への回答

(参考) 仙台市の救急医療の状況

仙台市の状況（二次・三次救急）

救急搬送における応需不能の背景

- 応需不能の主な理由
 - 「主訴・主傷病の専門の**医師の不在**」（62.5%）
 - 「医師が手術以外の患者対応中」（45.8%）
 - 「空床なし」（41.7%）

後方病床の確保の重要性

- 転院・退院に対する課題
 - 「退院可能な状況だが、医療的処置が必要なため退院先が見つかりにくい」（54.2%）
 - 「**転院先の病床に空きがない**」（41.7%）
 - 「入院の継続を要するが、ADL（日常生活動作）の低さや認知症等のため転院先が見つかりにくい」（41.7%）

（出典）仙台市保健福祉局「仙台市における医療のあり方に関するアンケート調査」

2. 御質問への回答

②再編の必要性に関する質問

Q 富谷市や名取市に病院が必要ならば、（仙台市内からの移転ではなく）新たに病院を建てたら良いのではないか。

A 仙台医療圏においては、将来にわたって急性期病床が過剰な状況が想定されており、また、医療従事者の確保の観点を踏まえ、新たに急性期病院を設置することは想定できません。

Q 黒川地域には公立黒川病院があるので、そのような病院と連携を強化する方が良いのではないか。

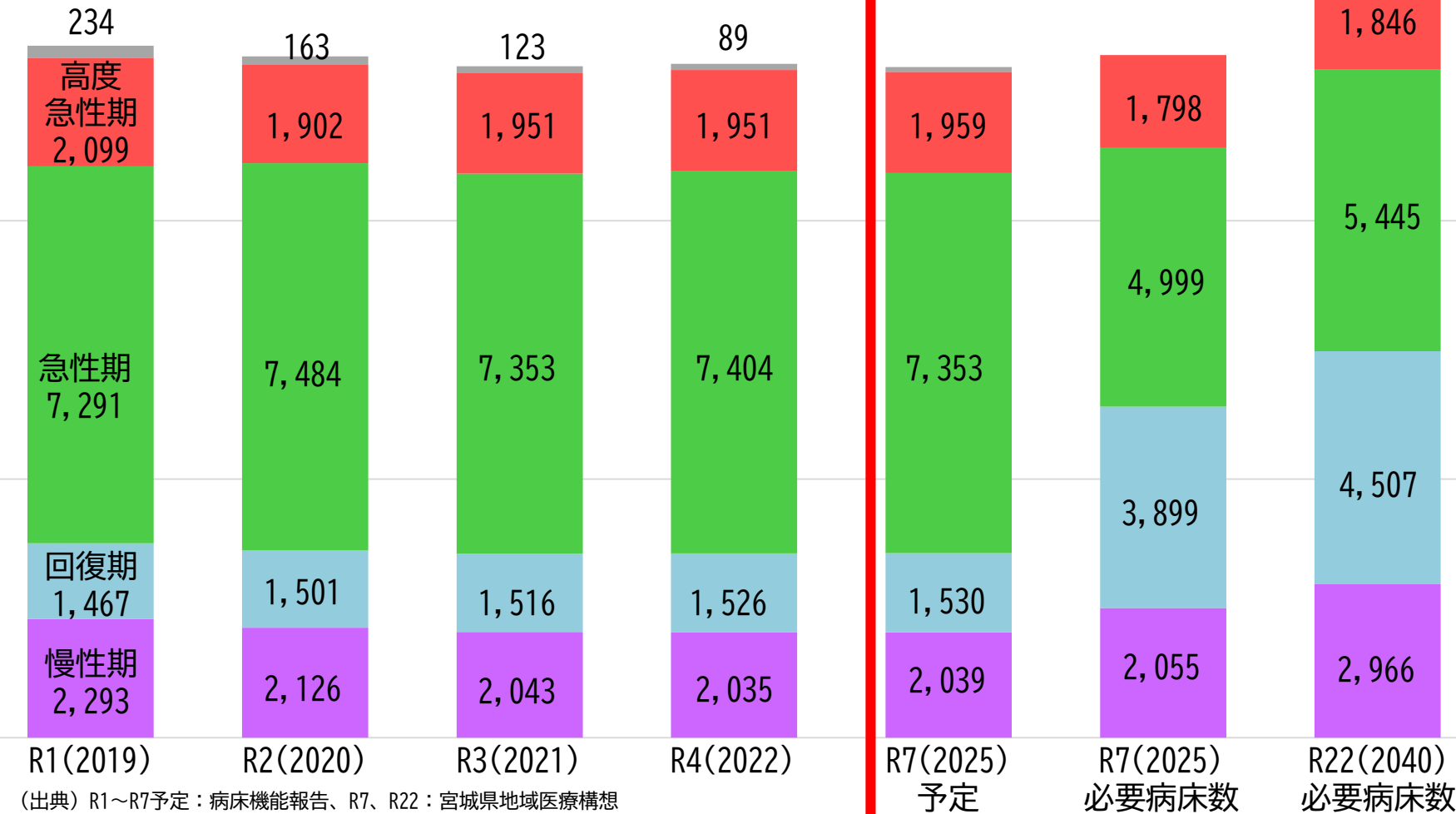
A 総合診療、地域包括ケアに積極的に取り組む公立黒川病院については、その強みを生かしながら役割を果たしてもらうことで、他の医療機関との機能分担・連携を通じた急性期から在宅まで切れ目のない地域の医療提供体制を目指していくことについて、地域の医療関係者からも期待する声をいただいています。

2. 御質問への回答

(参考) 仙台医療圏の必要病床数

2025年、2040年の必要病床数に対して急性期病床が超過、回復期病床が不足

休棟・無回答等



(出典) R1~R7予定：病床機能報告、R7、R22：宮城県地域医療構想

2. 御質問への回答

②再編の必要性に関する質問

Q 赤字というが、人の命には代えられない。医療は必要性があって行うものであり、経営状況を（移転の）理由にするのはおかしいのではないか。

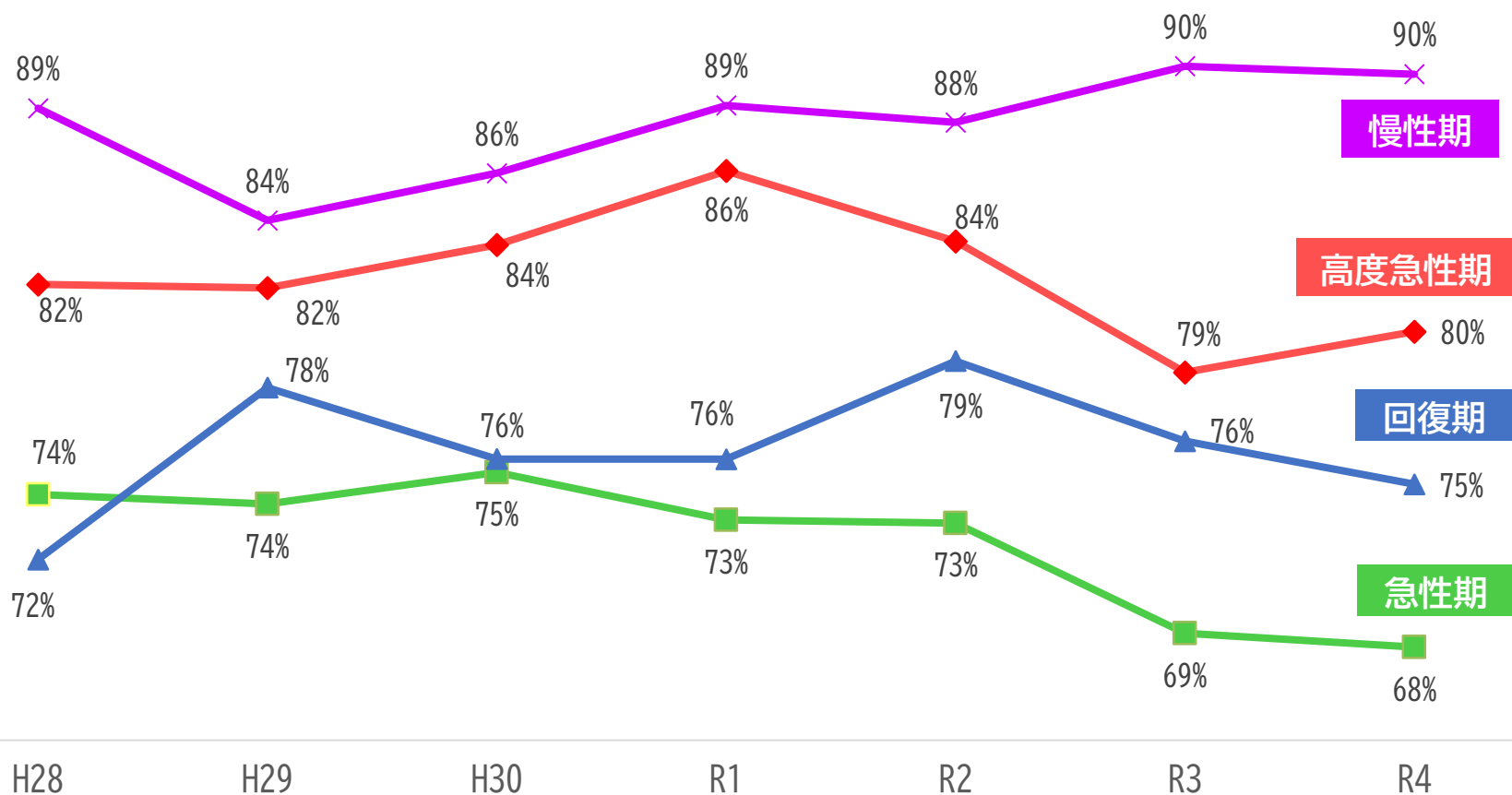
A 県としても、経営の観点より果たすべき医療機能が先にあるべきだと思っておりますが、医療の提供を持続させるためにも経営の持続性は必要であり、経営の観点も踏まえた医療の提供、施設、スタッフの問題、医師確保の問題、大学との連携など全体を踏まえた判断になると考えています。

Q なぜ東北労災病院と仙台赤十字病院だけが再編対象なのか。病床稼働率の低さや医業利益が赤字と言われても、他の病院との比較データがなく、信憑性に欠ける。

A 県には民間の病院を移転等させる権限はありませんが、仙台医療圏の課題を踏まえて、県が病院再編の方向性を仙台赤十字病院及び東北労災病院の運営主体に示し、それぞれの判断で、検討・協議に参加いただいているものです。協議参加の判断にあたっては、地域医療への貢献のほか、医療需要の見通しなど病院運営についての持続可能性も含め検討しているものと考えております。

(参考) 仙台医療圏における病床稼働率の推移

○ 慢性期病床以外は稼働率が低下傾向



(出典) 病床機能報告を基に保健福祉部で作成

※一般病床及び療養病床を持つ病院のデータのみ使用 (有床診療所を除く)

2. 御質問への回答

(参考)医療機関別病床稼働の状況

- 300床以上の一般病床及び療養病床を有する病院の平均病床稼働率は74.9%
- 民間病院の採算ラインは95%(東北労災病院は64%、仙台赤十字病院は69.4%)

(出典) 令和4年度病床機能報告

医療機関名	許可病床数 (一般+療養)	1日あたり 患者数	病床稼働率
東北大学病院	1,118	849.0	75.9%
独立行政法人国立病院機構 仙台医療センター	628	478.6	76.2%
東北医科薬科大学病院	554	393.4	71.0%
独立行政法人労働者健康安全機構 東北労災病院	548	350.9	64.0%
仙台市立病院	467	345.9	74.1%
独立行政法人国立病院機構 仙台西多賀病院	440	347.3	78.9%
仙台厚生病院	409	439.6	107.5%
独立行政法人地域医療機能推進機構 (JCHO) 仙台病院	394	301.0	76.4%
仙台赤十字病院	389	270.0	69.4%
国家公務員共済組合連合会 東北公済病院	385	243.6	63.3%
宮城県立がんセンター	383	243.4	63.6%
公益財団法人宮城厚生協会 坂総合病院	357	286.0	80.1%
医療法人 徳洲会 仙台徳洲会病院	347	247.1	71.2%
独立行政法人国立病院機構 宮城病院	344	261.3	76.0%
公益財団法人 仙台市医療センター 仙台オープン病院	330	256.6	77.8%
総計	7,093	5,313.7	74.9%

2. 御質問への回答

③再編の進め方に関する質問

Q 関係者との協議に当事者（患者）及び医療関係者等が参加しておらず、生の声を聴かないのはなぜか。

A 病院再編については、これまで患者等の当事者からの要請活動や、仙台医療圏の医療関係者による地域医療構想調整会議などを通して様々な御意見を頂いているところですので、できる限りの御意見の反映に努めてきたものと認識しています。

Q 県と住民との間で病院再編に関する信頼関係がきちんと築かれないうまま強引に進めたのでは、地方自治が破壊され、今後の宮城県の行政にとっても重大な問題が起こるのではないか。

A 住民の方々の、病院を動かしてほしくないという思いで、なかなか御納得いただけないという点はあると思いますが、様々な問題解決の方法があるということを今後も説明していきたいと考えています。県としてはできる限り信頼を得て進めたいと思っています。

④ 仙台市との関係に関する質問

Q 仙台市が説明会に同席していないのはなぜか。
病院が無くなることに対して、仙台市に相談を行っているのか。

A 仙台市とは意見交換しながら進めており、併せて医療関係者や専門家の方々から意見を伺い、基本的には認識の共有を図っていますが、救急搬送をしている現場の状況などもあり、解決方法に関しては仙台市と同じ方向を向いていない状況です。県としては引き続き、具体的な解決策について、仙台市と協議しながら進めていきたいと思っており、基本合意締結後で、具体的にどのような医療体制を作っていくかや、病院跡地の利用についても、仙台市とよく協議しながら、できれば今後の説明会の場に同席いただけるようお願いしていきたいと思っております。

2. 御質問への回答

⑤移転後の跡地に関する質問

Q 仮に東北労災病院が移転した場合、建物はどうするのか。
築20年しか経っていない建物をなぜ壊さなければいけないのか。

A 現在の建物については、労働者健康安全機構が判断するものと思いますが、地震によりだいぶ痛んでいるということも伺っています。また、日進月歩の医療の中で、今後果たすべき医療機能にそぐわない面もあるかと思われ、今後の医療進展に合わせた機能を発揮できる場所という観点も必要かと考えます。

Q これからの八木山地区は、大きな病院よりも、クリニックや老人保健施設、老人福祉施設がある方が最適と考える。移転後の跡地利用について、県から日本赤十字社側に配慮を求めることは可能か。

A 頂いた意見を日本赤十字社にお伝えいたします。

2. 御質問への回答

⑥精神医療センターに関する質問

Q 精神医療センターを建て替える適地は、本当に名取市にないのか。

A 名取市内への移転については、10年以上にわたって検討してまいりましたが、地権者の同意や、文化財調査等の行政手続き、土地の造成工事などの点において条件に合う土地が見つからず、建替えの実現に至っておりません。

Q 精神医療センターの移転先は、障害を持っている人にとって、現地からの距離が遠すぎる。

A 同様の御指摘は当事者等からも直接頂いており、これに対する我々の提案も変遷がありました。現在、名取市にも県立病院の一部の機能を残すサテライトを設置する案について検討を始めたところです。

県南から通っている患者で、富谷市にまで通えない方の思いを受け止められるような形で検討を進めていきますが、富谷市に移転する本院との連携は、同じ県立病院機構が経営することから、連携体制は図られるものと考えています。